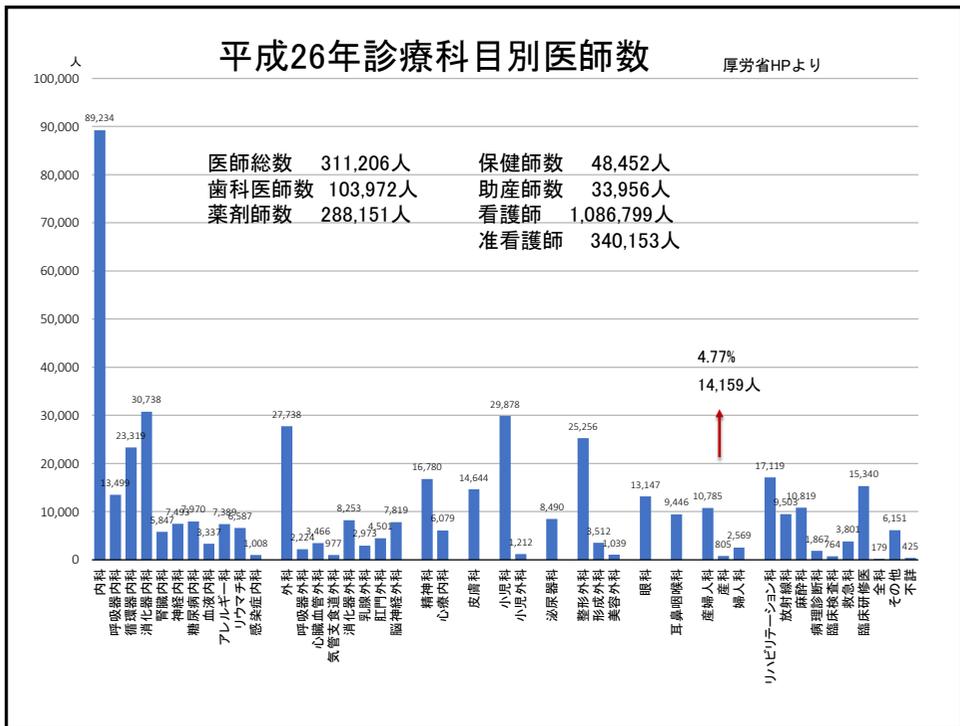
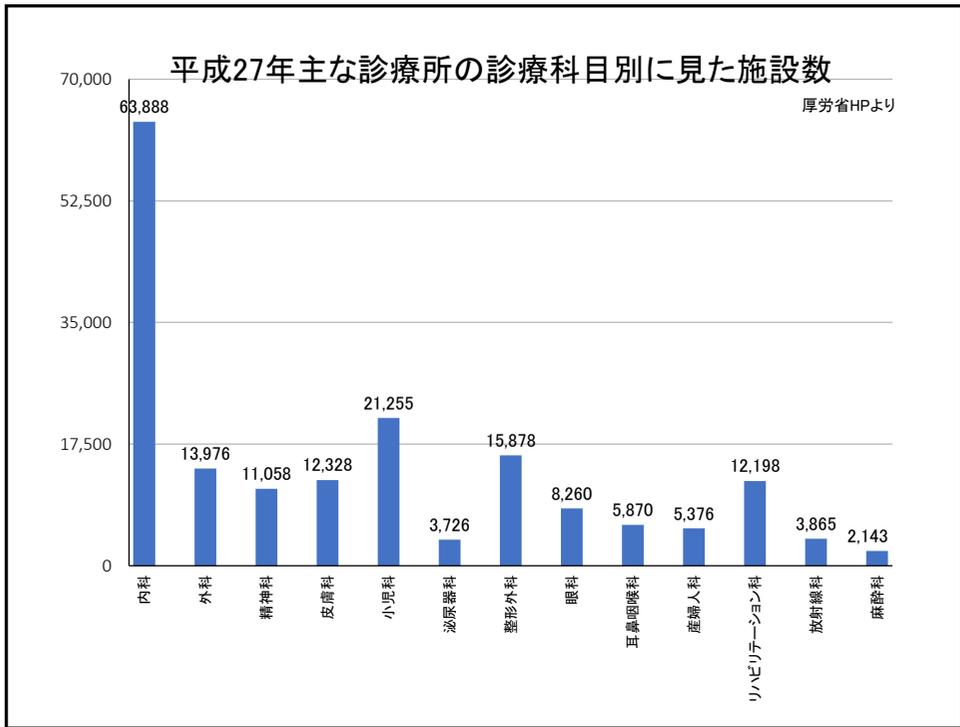
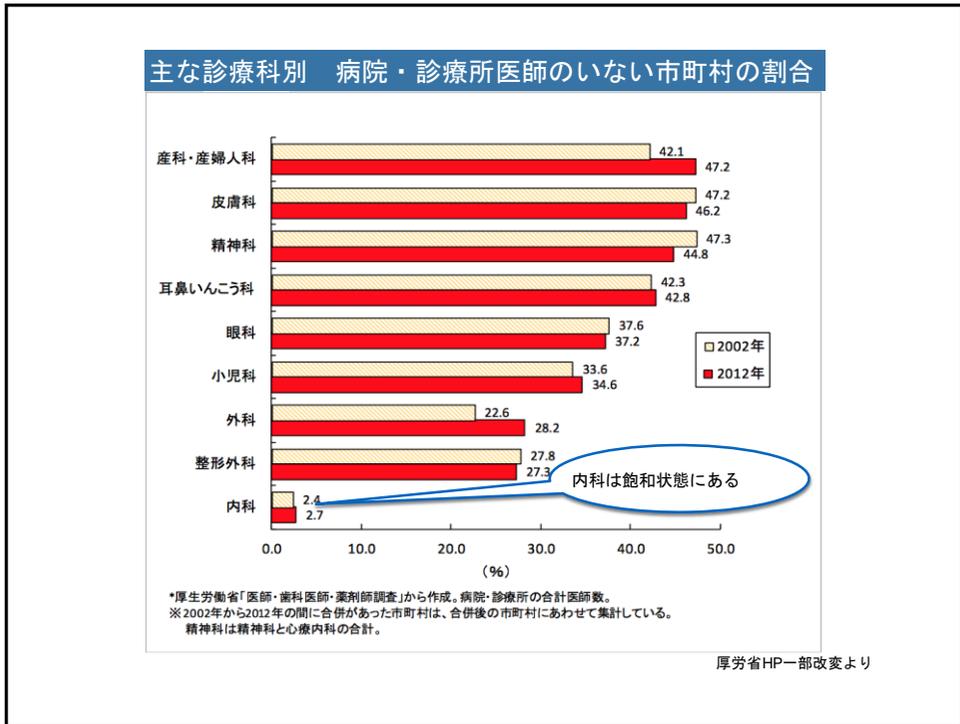
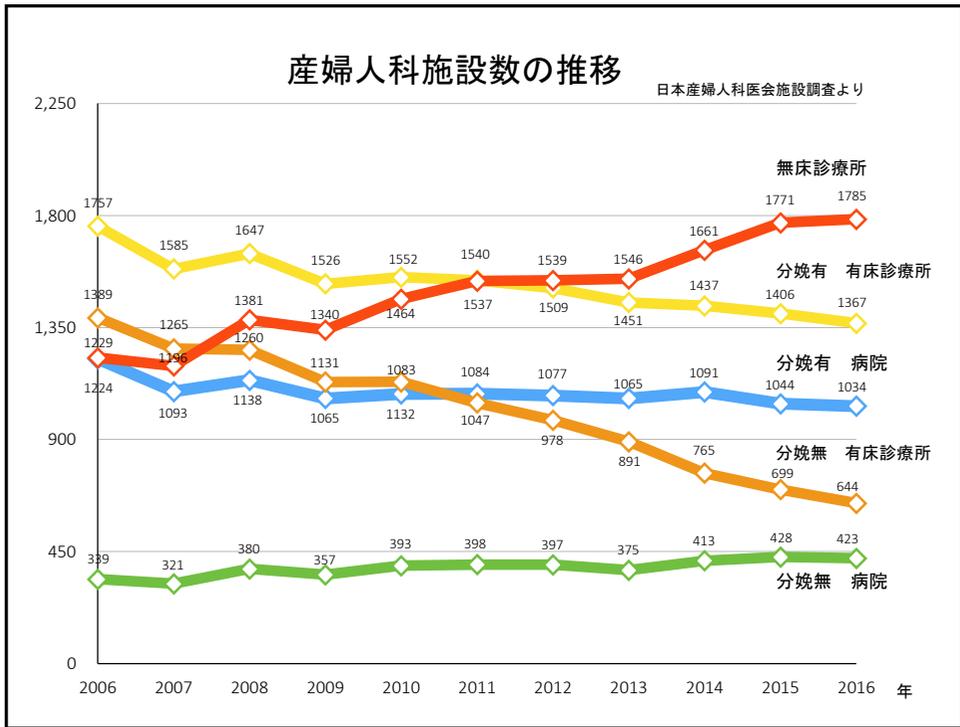


妊婦加算に関して

日本産婦人科医会常務理事
谷川原 真吾

日本の周産期医療の現状





妊娠とからだの変化

妊娠によるからだの変化

- 子宮の増大、体重増加、ホルモン環境の変化や免疫力の低下等により、妊婦さんのからだにはいろいろな変化が現れます。
- 検査データも非妊時の正常値から逸脱するものがあります。
 - 白血球数の増加、ヘモグロビン値の低下
 - 中性脂肪、コレステロール値の増加
- 病気の典型的な症状が変わるものがあります。
 - 急性虫垂炎の圧痛点が頭側（上方）に移動

マイナートラブルや合併症

- 妊娠によるからだの変化→マイナートラブル
 - つわり、膀胱炎症状、便秘、尿漏れ
 - 腰痛、腹痛（牽引痛）
 - 下肢のむくみ、こむら返り、静脈瘤
 - 動悸や息切れ（軽度のもの）、胸焼け
 - 皮膚の掻痒、視力の低下など
- 妊娠中の疾病（合併症）
 - 妊娠の継続や胎児への影響を考慮した診療が求められる
 - 産科的合併症
 - 妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育不全 他
 - 偶発合併症
 - すべての診療科領域の疾病が発症しうる

先輩ママに聞いた！妊娠中に風邪をひいて病院に行きましたか？

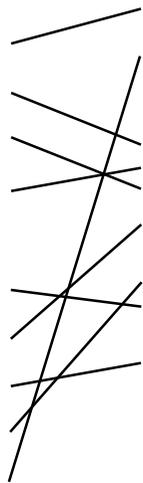


mamanoko調査隊調べ（有効回答数116）

約4割のママが妊娠中に風邪をひいて病院に行った経験があるようです。風邪の症状によっては、子宮収縮が引き起こされて早産になる可能性があるため、お腹の赤ちゃんのためにも風邪をひいたら病院に行く人が多いようですね。

ネット上妊娠中のマイナートラブル

手足のむくみ	37
眠い・眠れない	33
足がつる・手のしびれ	30
腰痛	29
おなかの張り	28
頻尿・尿漏れ	26
頭痛・肩こり	22
おりものが増える	10
恥骨痛・股関節痛	8
動悸・息切れ	6



むくみ
立ちくらみ
動悸(どうき)
のぼせる
だるい
気持ちが不安定
不眠症
腰痛
足がつる(こむら返り)
頭痛
肩こり
耳鳴り
尾髄骨・恥骨が痛い
尿漏れ・頻尿
乳首が大きく黒くなる
掻痒感(かゆみ)
シミ・黒ずみ
正中線の変化
髪・爪の変化
出鱈目(でべそ)
静脈瘤(じょうみやくりゅう)
毛深くなる

症状名	初期 (n=56)				中期 (n=201)				後期 (n=366)				One-way ANOVA F値		全体 (n=623)			
	名	%	平均値	中央値	名	%	平均値	中央値	名	%	平均値	中央値	名	%	平均値	中央値		
消化器系症状	腹部の締め付け感	51	91.1	2.8	3	176	88.0	2.9	3	327	89.3	3.1	3	554	89.1	3.0	3	
	口唇	49	87.5	2.4	3	170	84.6	2.5	2	311	85.2	2.6	3	530	85.2	2.5	2	
	排便困難感	46	82.1	2.8	3	158	79.0	2.9	3	298	81.4	2.6	3	502	80.7	2.7	3	
	胃部圧迫感	36	64.3	2.5	2	148	74.0	2.5	2	259	82.6	2.6	3	483	78.2	2.5	2	
	食欲増進	39	69.6	2.7	3	155	77.6	2.7	3	280	76.9	2.6	2	474	76.8	2.6	2	
	嘔吐	45	80.4	2.4	2	148	74.4	2.3	2	251	68.8	2.3	2	444	71.6	2.3	2	
	嘔気	47	83.9	2.3	2	138	68.7	2.0	2	239	65.3	2.1	2	424	68.1	2.1	2	
	排便回数・量の減少	37	66.1	2.9	3	138	69.0	2.8	3	226	61.9	2.7	3	401	64.0	2.8	3	
	泌尿器系症状	頻尿	50	89.6	3.5	3	185	92.0	3.5	3	344	93.8	3.8	4	579	93.8	3.6	4
		帯下の増加	47	83.9	2.9	3	161	80.5	3.2	3	310	84.9	3.1	3	518	83.4	3.1	3
性欲減退感		45	80.4	3.3	3	160	80.4	3.1	3	300	83.6	3.1	3	505	82.2	3.1	3	
下腹部の緊張や痺れ		41	73.2	1.9	2	149	75.3	2.2	2	259	82.8	2.3	2	489	79.5	2.2	2	
乳房腫脹感		44	78.6	2.7	2	140	70.4	2.4	2	225	61.4	2.1	2	407	65.9	2.2	2	
尿漏れ		23	41.1	2.2	2	115	57.2	2.3	2	236	64.7	2.5	2	374	60.1	2.4	2	
残尿感		24	42.9	1.8	1.5	103	51.2	2.1	2	220	60.1	2.1	2	347	55.7	2.1	2	
尿道圧迫感		22	39.3	2.4	2	95	47.7	2.3	2	201	54.9	2.4	2	318	51.2	2.3	2	
関節系症状		肩こり	48	85.7	2.9	3	151	75.1	2.9	3	277	75.7	2.9	3	476	76.4	2.9	3
		骨節痛	37	66.1	1.9	2	137	68.2	2.5	2	298	81.4	2.8	3	472	75.8	2.6	3
	腰痛増悪	33	58.9	2.4	2	133	66.5	2.5	2	294	80.5	2.8	3	460	74.1	2.7	3	
	下腿のだるさや痛み	29	51.8	2.1	2	133	66.5	2.4	2	271	74.0	2.5	2	433	69.6	2.4	2	
	こむら返り	17	30.4	2.1	2	94	46.8	2.1	2	246	67.4	2.2	2	357	57.4	2.2	2	
	全身性症状	易疲労感	52	92.9	3.3	3	191	95.5	3.1	3	345	94.3	3.3	3	568	94.5	3.2	3
		全身倦怠感	52	92.9	2.9	3	184	91.8	2.9	3	338	92.6	3.2	3	574	92.8	3.1	3
		強い眠気	51	91.1	2.8	3	174	86.6	2.5	2	308	84.4	2.6	2	533	85.7	2.6	2
		イライラ感	44	78.6	2.6	2.5	161	80.1	2.3	2	295	80.6	2.4	2	500	80.3	2.4	2
		熱感/寒感	39	69.6	2.7	3	134	66.7	2.6	2	286	78.4	3.0	3	459	73.8	2.9	3
胸やけ気分		38	70.4	2.0	2	130	65.5	2.0	2	250	70.8	2.1	2	427	70.3	2.1	2	
人混み難感		35	62.5	2.3	2	124	61.7	2.2	2	259	70.8	2.6	2	381	61.1	2.5	2	
ちよっとしたことが思いつかない		36	64.3	2.0	2	105	52.2	1.9	2	198	54.2	2.1	2	339	54.5	2.0	2	
物事の気にかかると		30	53.6	1.8	2	105	52.2	2.0	2	197	54.0	2.3	2	332	53.4	2.2	2	
脱力感		36	64.3	2.2	2	98	48.8	2.2	2	179	48.9	2.3	2	313	50.2	2.2	2	
精神神経系症状	動悸・息切れ	38	67.9	2.2	2	123	61.2	2.2	2	261	71.5	2.5	2	422	67.8	2.4	2	
	めまい・立ちくらみ	37	66.1	2.2	2	132	65.7	1.8	2	215	59.1	1.9	2	384	61.8	1.9	2	
	下腿のむくみ	24	42.9	2.2	2	107	53.5	2.2	2	243	66.8	2.7	2	391	63.3	2.5	2	
	下腿の冷え	38	67.9	2.5	2	123	61.5	2.5	2	201	55.2	2.4	2	362	58.4	2.4	2	
	多汗	31	55.4	1.9	1	102	50.7	2.1	2	219	60.7	3.0	3	2137	35.2	2.6	2	
	体熱感	27	48.2	2.3	2	105	52.2	2.1	2	220	60.4	2.5	2	332	54.7	2.4	2	
	皮膚系症状	皮膚の乾燥	49	88.1	3.2	3	163	81.5	2.8	3	268	74.0	2.6	2	407	65.0	2.7	3
		臭いに対する過敏反応	43	76.8	3.0	3	157	78.1	3.1	3	256	70.3	3.2	3	456	73.4	3.2	3
		好気/嫌気の変化	40	72.7	3.1	3	146	72.8	2.7	3	234	63.9	2.6	2	420	67.5	2.7	2
		肝斑・雀斑	40	72.7	2.5	2	146	72.8	2.6	2	235	64.6	2.6	2	370	59.7	2.6	2
体毛の増加		29	51.8	2.4	2	105	52.5	2.7	2	210	58.0	2.7	2	344	55.7	2.7	2	
口唇内出血		27	48.2	1.8	2	116	57.7	2.2	2	202	55.3	2.3	2	345	55.5	2.2	2	
顔面潮紅		34	60.7	2.8	3	113	56.5	2.4	2	196	53.7	2.5	2	343	55.1	2.5	2	
口臭に対する過敏反応		25	44.6	1.8	1	109	54.5	2.2	2	185	51.0	2.2	2	319	51.5	2.2	2	
嗜好品摂取の変化		30	53.6	3.1	3	104	51.7	2.9	3	173	47.4	3.0	3	307	49.4	3.0	3	
色覚異常		15	26.8	2.1	2	72	36.2	2.2	2	136	38.1	2.9	3	273	44.1	2.8	3	

発症率: 「1点: まれにある」から「5点: いつもある」と回答した数(有症者数)とその割合、発症頻度: 有症者における平均値と中央値
 発症率75%以上90%未満: 発症率90%以上
 F値は妊娠初期、中期、後期の3群間の一元配置分散分析、*p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

現代の妊婦のマイナートラブルの種類、発症率及び発症頻度に関する実地調査
 日本助産学会誌 Jpn. Acad. Midwif., Vol. 23, No. 1, 48-58, 2009 一部改変

妊娠にともなう眼の生理的変化

1. 眼組織における性ホルモン受容体の発現角膜の上皮細胞・実質細胞・内皮細胞には、エストロゲン・アンドロゲン・プロゲステロン受容体が発現している。角膜組織以外でも球結膜組織・瞼結膜の瞼板組織・涙腺組織・マイボーム腺組織、また網膜の光受容体細胞や網膜色素上皮細胞にもエストロゲン受容体が発現している。ホルモン感受性乳癌の治療に使用するエストロゲン受容体リガンドであるタモキシフェン(Tamoxifen)は網膜黄斑部の浮腫(tamoxifen maculopathy)を起こすことがある。

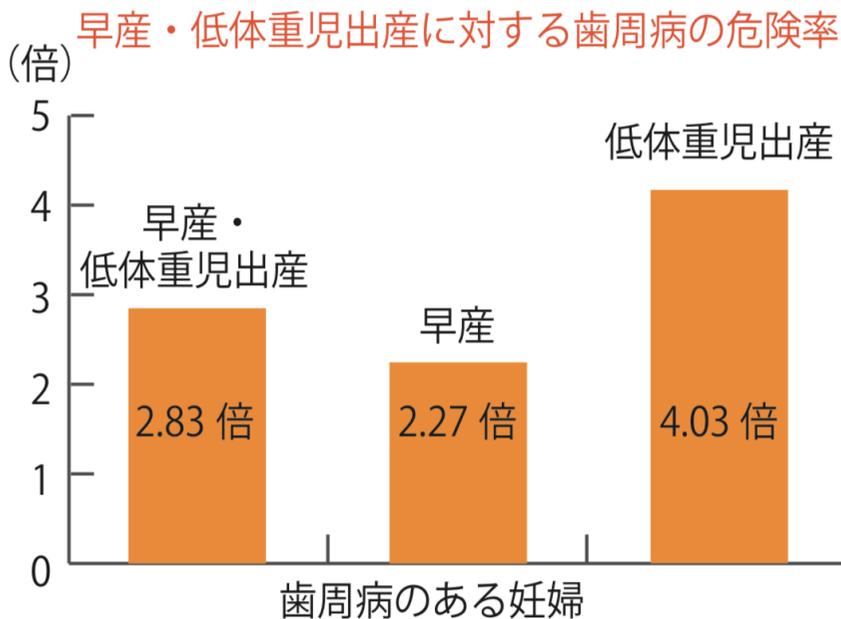
2. 妊娠中の角膜組織の変化

- ・角膜知覚の低下(出産後約2カ月で回復)
- ・角膜厚の増加(妊娠後期に向い増加 1~16mm)
- ・角膜の形状変化(曲率半径の増大)
- ・近視化(約1ディオプターの変化)

角膜組織の変化は生理中にも認められ、生理前と比較して生理中では角膜厚が10~20mm増大する。そのメカニズムにはエストロゲンをはじめとする性ホルモンが関与していることが知られているが、詳細は不明なところが多い。

妊娠中に今まで装着していたメガネやコンタクトレンズの不具合を訴えることがある。これは角膜形状変化または近視化によってコンタクトレンズのフィッティングやメガネの度数が適正でなくなったことによると考えられる。新しいコンタクトレンズやメガネの処方妊娠中ではなく出産後1~2カ月してからの方が良い。

海老原伸行 妊娠と眼アレルギー 63(5), 669-673, 2014 一部改変



Am J Obstet Gynecol,196:135,2007.

妊娠中や授乳中の投薬

- 非妊時と異なり胎児・新生児への影響を考慮した処方が必要
- 薬剤の添付文書
 - 妊婦、産婦、授乳婦等への投与
 - 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
 - 授乳婦に投与するときは授乳させないように注意すること。〔母乳中に移行することが報告されている。〕
- 妊娠と薬情報センターに相談
- 海外の文献で検索

妊婦外来診療に対する評価を

妊婦の外来診療（健診時以外）

- 非妊時の診療に比べて多くの時間がかかる
 - 慎重な対応や胎児への配慮が必要
 - 妊娠の継続
 - 胎児・新生児への影響
 - 薬の安全性等に関する十分な説明が必要
 - 「妊娠が判った後は、心配なので薬を飲まないでいました」
 - 「他の診療所でもらった薬ですが、飲んで大丈夫ですか」
- 妊婦の外来診療に積極的でない医療機関の存在
 - 妊婦さんは診ないので産科に行きなさい

妊婦の外来診療に対する評価

- 分娩施設や産科に従事する医師が減少する中で、世界でトップレベルの産科医療を維持するために「妊婦の外来診療に対する診療報酬上での評価」を日本産婦人科医会では以前より要望してきました。
 - 通常よりも丁寧な診療に対する評価
 - 産科以外の医療機関でも妊婦の外来診療に対して、今まで以上に丁寧に取り組んでいただきたいとの思い
 - 安心安全な産科医療提供の継続

厚生労働省保健局医療課長宛要望書

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下勝之
公益社団法人日本産科婦人科学会 理事長 藤井知行

2017年5月26日

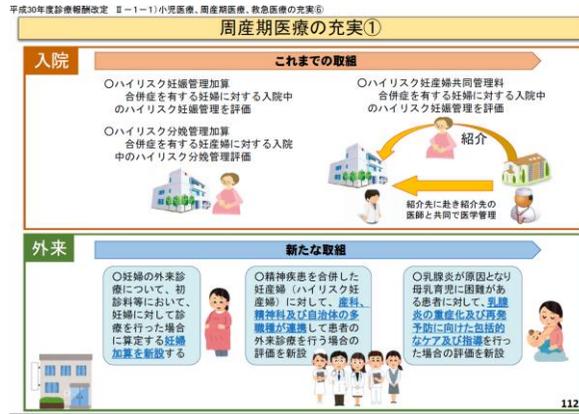
次期診療報酬改定への要望事項について

1. 妊婦の偶発合併症における初・再診料での指導管理加算の新設
2. 帝王切開術の複雑加算に「多胎」を追加
3. 帝王切開手術料の見直しと医師の待機時間についての加算
4. 流産手術に対する増点
5. 産婦人科医療における診療報酬の適正な評価
医学管理料：子宮内膜症、月経困難症、更年期障害、
月経前緊張症、産後うつ病

妊婦加算の新設

妊婦加算

・平成30年度診療報酬改定で新設



平成30年度診療報酬改定 Ⅱ-1-1)小児医療、周産期医療、救急医療の充実⑦

周産期医療の充実②

外来における妊婦加算の新設

- 妊婦の外来診療について、妊娠の継続や胎児に配慮した適切な診療を評価する観点から、初診料等において、妊婦に対して診療を行った場合に算定する妊婦加算を新設する。

初診料 (新) 妊婦加算(時間外/休日/深夜) 75点(200点/365点/695点)等
 再診料・外来診療料 (新) 妊婦加算(時間外/休日/深夜) 38点(135点/260点/590点)等

精神疾患を合併した妊産婦への指導管理に係る評価

- 精神疾患を合併した妊産婦(ハイリスク妊産婦)に対して、産科、精神科及び自治体の多職種が連携して患者の外来診療を行う場合の評価を新設する。

(新) ハイリスク妊産婦連携指導料1 1,000点(月1回)	(新) ハイリスク妊産婦連携指導料2 750点(月1回)
産科又は産婦人科	精神科又は心療内科
精神疾患の妊婦又は出産後2月以内の精神疾患の患者*	精神疾患の妊婦又は出産後6月以内の精神疾患の患者**
概ね月に1回の頻度で、患者の心理的不安を軽減するための面接及び療養上の指導を行う	精神疾患及びその治療が妊娠、出産等に与える影響について患者に説明し、療養上の指導を行う
必要に応じて小児科と適切に連携して診療する体制を有している	
産科又は産婦人科を担当する医師又は保健師、助産師若しくは看護師及び当該患者の診療を担当する精神科又は心療内科を担当する医師又は保健師若しくは看護師及び市町村等の担当者による多職種カンファレンスが概ね2ヶ月に1回程度の頻度で開催	
出産後の養育について支援を行うことが必要と認められる場合、患者の同意を得た上で、市町村等に相談し、情報提供を行う	
精神疾患の妊産婦について、直近1年間の市町村等との連携実績が1件以上。原則として受診する全ての妊産婦を対象に、メンタルヘルスのスクリーニングを適切に実施	精神疾患の妊産婦について、直近1年間の他の保険医療機関又は市町村等との連携実績が1件以上

※ 精神療法を実施されている患者に限る。

妊婦加算

- ・診療報酬点数や算定要件は乳幼児加算と同様

初診料の加算

	通常	6歳未満		妊婦		救急	
		小児科		産婦人科		6歳未満・妊婦	
診療時間以内		75		75		75	
夜間		200		200		230	
休日		365		365		250	
深夜		695		695		480	
診療時間以外		200		200		85	
夜間	85	200		200		230	
休日	250	365		365		250	
深夜	480	695		695		480	

救急：時間外特例医療機関を指す

妊婦加算

- ・診療報酬点数や算定要件は乳幼児加算と同様

再診料の加算*

	通常	6歳未満		妊婦		救急	
		小児科		産婦人科		6歳未満・妊婦	
診療時間以内		38		38		38	
夜間		135		135		180	
休日		260		260		190	
深夜		590		590		420	
診療時間以外		135		135		65	
夜間	65	135		135		180	
休日	190	260		260		190	
深夜	420	590		590		420	

*外来診療料についても同様

加算に関する医会員への周知

- 産婦人科医会報
 - 4月号
- 全国医療保険担当者連絡会
 - 5月20日
- 各ブロック医療保険協議会
 - 6月～11月
- 産婦人科医会報
 - 12月号

適切な運用を指導

- 妊婦加算の算定に当たって、妊婦健康診査と同時に行った検査・治療・処置に関しては、摘要欄に診察料を自費にて算定として、これまでどおり検査・治療・処置を算定するが、加算料は算定しない。保険診療の初診料・再診料に対する加算として算定する。
- 異所性妊娠、稽留流産、不全流産、胎状奇胎等の病名では妊婦加算の算定はしない。基本的な考え方に、「妊婦の外来診療について、妊娠の継続や胎児に配慮した適切な診療を評価する観点から初診料等における妊婦加算を新設する」となっている。

妊婦加算の凍結

昨年秋以降の経過

- ツイッターやマスコミ等で反対意見が
 - 「妊婦税」「少子化対策に逆行」などと炎上
 - 患者窓口負担増だけが問題視され、加算の趣旨や内容に関する議論はほとんど無かった
- 国会や与党での議論
 - 自民党厚生労働部会での議論で凍結の方向へ
- 昨年12月19日厚労大臣が中医協に一時的な凍結を諮問
 - 31年1月1日からの凍結が決定

問題点

- 厚労省やマスコミからの周知不足のため妊婦加算の趣旨・内容が国民に十分理解されなかった
 - 妊婦やその家族に誤解と不安を与えた
- 医療機関にも加算新設の経緯や内容が十分説明されていなかった
 - 趣旨に沿わない不適切な運用
 - 患者に対する説明不足
- 患者（妊婦）の視点が足りなかった
 - 窓口負担の増加に納得が得られなかった

凍結された妊婦加算に対する
産婦人科医会の見解

問題点と医会の考え

- 政治の判断で妊婦加算に関しての調査・検証無く凍結となったことは極めて異例であり遺憾
 - 今後開催される有識者会議で、加算の必要性和適切な運用について議論され、早期に凍結が解除されることを期待します。
- 診療の対価は診療報酬であり、患者の負担増に対する軽減措置は社会保障全体の枠組みの中で議論すべき
 - 自治体によっては妊産婦医療費助成制度がすでに運用され、妊婦の自己負担がゼロとなっています。

少子化対策の拡充に向けて

- 少子化対策としては、**妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援が必要です。**
- 今年**は統一地方選挙、参議院選挙の年です。**
- 今回の問題を契機に**全国で妊産婦支援策が議論され、新たな制度が創設されることを期待します。**

